

西脇市消費生活センター No.182 簡単にお金がもらえる誘いに注意

「相談に乗るだけでお金がもらえる」「当選金を受け取ることができる」などとうたってサイトに誘導し、利用登録後に利用料金や手続き費用などとして高額なお金を請求され、支払ってしまったという相談が寄せられています。

サイトでは「簡単にお金がもらえる」とうたっていますが、気軽に登録してしまうと、上記のようにさまざまな名目で次々とお金を請求されてしまいます。相手に指示されたとおりにクレジットカードの番号を伝えたり、電子マネーのギフトカードを購入しコード番号を伝えたりしてお金を支払っても、お金を受け取ることはできません。そして、支払ったお金を回収するために、さらにお金を支払わなければならないようになります。

◆アドバイス

簡単にお金がもらえる話はありません。「自宅で簡単に稼げる」「相談に乗るだけで報酬がもらえる」「当選金を受け取れる」などの誘いは、信用しないようにしましょう。また、メールなどで誘われても、絶対に返信しないようにしましょう。

あぐりコラム 20

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



和牛・国産牛・輸入牛の違い

お肉屋さんやスーパーで、牛肉が「和牛」「国産牛」「輸入牛」に分かれて販売されていることを不思議に思う方は多いのではないのでしょうか。輸入牛は外国で加工してから輸入した肉のことで、イメージがしやすいと思います。では、和牛と国産牛はどうでしょう。

「和牛も国産牛も、同じ日本の牛じゃないの」と考える方が多いと思いますが、これらは明確に違います。国産牛は生まれた場所や品種に関係なく、肥育された場所が一番長いのが日本で、日本で食肉加工された牛を指します。国産牛として販売される牛肉の多くは、乳牛種（ホルスタイン種）とその交雑種といわれています。一方、和牛は日本の在来種を元に交配を繰り返す、肉専用種として改良された牛を指します。黒毛和種・褐毛和種・日本短角種・無角和種に指定された4つの牛の品種、またはその4品種間の交雑牛のみが「和牛」というのです。黒田庄町で肥育されている黒田庄和牛は、黒毛和種の但馬牛で、出荷された多くが「神戸ビーフ」に認定されています。



片山市長から要望書を受け取った西村康稔経済再生担当大臣（中央）

「ピンチをチャンスにする何か工夫はないか？」と、思いをさせていると、「播州織工業協同組合さんが開発された加工方法が、新型コロナウイルスに有効である」と新聞に掲載され、とても心強く感じました。関係機関と関係自治体が知恵を絞り、一丸となりながら地場産業の灯を私たちが引き継がなければなりません。 「元気なまち西脇市」を皆さんとともに創ってまいります。



西脇市長 片山象三

市長からの手紙

西脇を元気に!!

83

地域経済を守るために

令和2年も師走・12月になりました。今年に入って新型コロナウイルス感染症が全国的に広まり、間もなく一年がたとうとしています。至る所で大きな影響が出ており、改めて病魔の猛威を実感します。地場産業「播州織」においても、従前からの構造的な課題に加え、主要な取引先である国内アパレルがコロナ禍による影響で、大きな打撃を受けています。先月、播州織業界や商工会議所・商工会、関

係自治体でまとめた要望書を、西脇商工会議所・齋藤太紀雄会頭、多可町長とともに、地元選出の藤井比早之内閣府副大臣、西村康稔特命大臣、経済産業省、中小企業庁、厚生労働省などを訪問、面談して提出してきました。厚生労働省の局長面談時には、NHKの取材もあり、産地の情勢も含めてメディアにより発信されました。



▲小学校に集まって作業するボランティアの皆さん

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

子どもたちの学びを支援するボランティア 皆さんの力を学校運営に生かしませんか

教育委員会では「学校・家庭・地域」が一体となって子どもを育て、学校教育の一層の充実を図ることを目指しています。平成20年度に始まった「地域学校協働本部事業」では、子どもたちの教育活動のために現在までに184人が学校支援ボランティアに登録。学校の授業や活動の中で、子どもたちの学びを支援しています。今回は、ブックポケット製作ボランティアの様子を紹介いたします。

読書を身近に感じるための「ブックポケット」を製作

「ブックポケット」とは本を収めておくことができる袋のことで、いすの背もたれにかぶせて使えます。子どもたちに空き時間に本を読んで知識を増やしたり、読書に親しむを持ったりしてもらおうと市内の小学校で広まっている取り組みです。今年19人のボランティアの方に、楠丘・桜丘小学校の児童のための製作に携わっていただきました。織物業者などから播州織の生地を提供を受け、ボランティアの皆さんはさまざまなアイデアを取り入れながら製作。子どもたちのいすの大きさに合わせ、計332枚を縫い上げました。

ブックポケットを受け取った子どもたちが「大事に使います」とあいさつ。ボランティアの皆さんは「役に立てたことがうれしい」と喜びました。

子どもたちの学習を支えるボランティアを募集

事業を通じた地域の皆さんの温かい支援活動の輪が広がっています。教育委員会では、子どもたちの学びや学びの環境づくりを支援する「学校支援ボランティア」を随時募集しています。ボランティアの皆さんの思いと技術が、子どもたちの学習を支えています。活動内容や登録などは、左記へお問い合わせください。

◆問合せ 生涯学習課（総合市民センター内） ☎22-15996

心のスケッチ

140

人権教育課コラム

困ったときこそ

私の手元に、ある地域が制作した「令和2年度防災計画」という冊子があります。大規模地震や豪雨などの発生時の防災体制が明記されています。防災計画の運営主体である自主防災会は、過去の災害による被害状況や対応の反省に立ち、今年新しく「災害時要援護者支援班」を作りました。

班の役割は、災害時における要援護者の避難行動の支援。主な要援護者は、高齢者や1人暮らしの方です。1人暮らしでなくても、同居する家族も高齢で、避難などが難しい世帯も対象となります。冊子の要援護者ネットワーク編成表を見て、「なるほどなあ」と思いました。1人の要援護者に対し、支援者が3人配置されていたからです。万が一、最初の支援者が不在の場合でも、次の支援者、また次の支援者と、支援が二重三重に整えられていることに感心し、優しさを感じました。また、冊子には支援の心構えも明記されています。その一つには「困ったときこそ温かい気持ちで接する。非常時こ

そ、不安な状況に置かれている人に優しく接する必要がある」とあります。

ある町では、人権学習会で特別養護老人ホーム・コモエスタにしわき施設長の宮下京子さんを講師に招き「住み慣れた地域で暮らし続けるために」と題した認知症の講演会が開かれました。それに参加した私は、宮下さんの「認知症患者への家族や近所の人に関わり方」の言葉が強く心に残りました。▽穏やかな気持ちで接する▽できないことだけを手助けする▽無視したり孤立させたりしない。これらの文の冒頭に「困ったときこそ」を付けてみると、どれもじっくりと理解ができます。「災害弱者」と呼ばれる高齢者や認知症患者に共通して、「困ったときこそ」温かく適切に対応することが本当に大事なことです。では、関わる者に必要な心構えは何でしょうか。その手掛かりが講演の最後にありました。「一番苦しく、不安で悲しい思いをしているのは、本人なのです。」

（人権教育課）